

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二二二七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！

「謀略」な拙な分割の底

当局・権力 革マルの組織かく乱策動 許す

二月二十八日、三月十二日付で一部組合員宅に又ぞろ「怪文書」が郵送された。わが動労千葉の二波のストライキに悲鳴をあげ、報復の大量不当処分で、組織破壊を策す政府・当局と一体となった、かかる行為を断じて許さない。すでにわれわれの調査・追及により、これが動労革マルの手によるものと判明した。国鉄労働運動解体の先兵、動労革マルへの怒りを倍化させ、必ず追放・一掃しよう。

中曽根・杉浦と一体となった動労革マルの組織破壊攻撃許すな

二度にわたる「怪文書」の一回目が、反処分の非協力・順法闘争、線見阻止闘争、一五ストを動労千葉が勝利的に闘いぬぎ、現場において事実上の国労共闘を実現し、当局を追いつめている段階の二月二十八日に郵送されていること。二回目、第二波闘争への不当処分発令直前の三月十二日付であることを見ても、これが当局と有無相通じたものであることは明らかである。そして、内容を見れば、差し出し人は一目瞭然である。すなわち文書は、一組合員をよそおっているものの、「今となつては、分割・民営化攻撃に勝利することも絶望的」「新事業体に残るためにも処分を受けたらおしまいです。選別されないため、振るい落されないためにも動労千葉と決別しなければならぬ」と、「闘っても勝てない」。「闘ったら新会社に残れない」という動労革マルの本音を思わずみ出しにしたものとなっているのである。もつとも主張そのものは、政府・当局が動労千葉破壊のためにマスコミに流している情報をネタに、自らの願望（こうなればいい）を書きつらね、二回目に至っては、かの週刊新潮の記事をコピーし、自らの主張の裏付けをせんとするという、お粗末



なものではある。しかし、この卑劣なやり方は絶対に許せない。

全組合員が階級的警戒心を高めよう

われわれの調査によれば、同一人物と思われる男が、いずれも二〇通ほどの封書を投函したが、内何通かはあて名がまちがっており、郵送されなかったのである。

組合員なら区の職員名簿をもっているから住所をまちがうこともなく、また全員に出せるのである。

真正面から、われわれの闘いを見すえ、批判することができないがゆえに、組合員を装い、コソコソと封書を投函し、なんとか動労千葉の組織かく乱を狙おうとする、かかる動労革マルのウスギタナイ所業を断じて許してはならない。

十万人首切り阻止こそ職場と生活を守る道だ

「労使共同宣言」を発し、奴隷となりはてた動労革マルに、労働者の生活・職場を守るなどと言わしてはならない。当局は、動労・鉄労・全施労の動きをにらみつつ、新会社社についてスト権を与えても、ストをやれない組合にすると豪語している。

動労革マルの道の結論がこれだ。赤字の新会社で反対の声もあげられず、必要な合理化により職場から叩き出され、権利も生活も奪われ、松崎や革マル分子のみが生きのこる。何が職場と生活を守るだ。

われわれは、労働者として、こんな道をキッパリと拒否した。いかなる反動・弾圧・卑劣な組織破壊攻撃があろうと、十万人首切り粉碎、「分割・民営化」阻止へ闘いつづける。

全組合員が階級的警戒心を高め、団結も固く進撃しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！